

はくびつかい

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'89 2月号

寄贈品コーナー

「万田熊ノ台遺跡」展

期間 2月1日～26日

昭和54年に調査された出土品を紹介します。

縄文時代中期初頭に位置付けされる五領ヶ台式土器がかなりまとまって出土しており、五領ヶ台貝塚や日向丘遺跡との関連が注目されます。

また古墳時代前期の方形周溝墓の溝内より人骨とともに、小形素文鏡、管玉、鐵鐵が出土したことは、全国的にも少ない事例だけに、大変価値ある資料といえます。



方形周溝墓の溝

鐵鐵



管玉



小形素文鏡

新しいプラネタリウムがやってきます

(前編)

1 コンピュータ化されたプラネタリウム

プラネタリウムという名前は、プラネット（惑星）という言葉から作られたものです。もともと、ドイツ博物館の展示物として、ドイツの有名な光学機メーカー、カールツァイス社で製作されました。現在では日本でも優秀な機械が作られています。

プラネタリウムは、星空の中を移り行く惑星の複雑な運動を、巧みに組み合せた歯車によって再現し、同時に映し出される星ぼしの中を動いて行く様子を見られることが最大の特徴です。そして、地球上のどこでも見たいと思う場所の星空とその動きを再現してくれます。そのために、プラネタリウムは「天動説」的な運動機能を持ちます。地球上のどの地点にいるのかを決める「緯度軸」、地球の自転による星空の動きを表現する「自転軸」、地球の自転軸が長い年月の間に天球上を回転するのを再現する「オチ差軸」、元々はなかったのですが、最近の機械に付いている、地上で見る時の方針を変更する「回転架台軸」の4軸を持っていました。プラネタリウムの特徴的な姿は何といつても、あるいは大きな球、恒星球ですが、小さく何段にも重ねて取り付けられた惑星棚こそは、プラネタリウムの主役なのです。

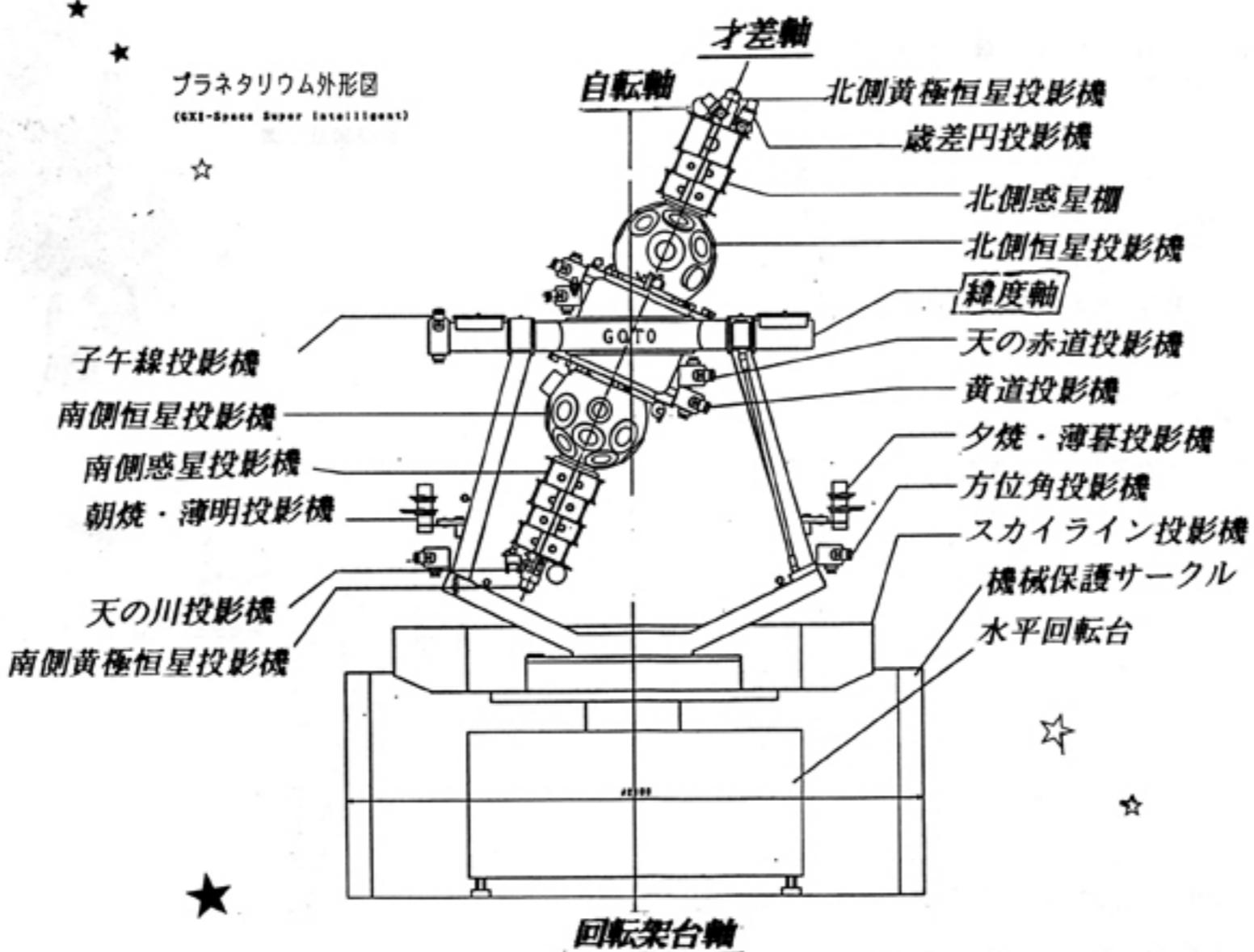
今度の投影機はこれらの各軸と惑星棚の動きが今まで以上に早く動くようになります。それもなんと6倍も、です。そのために、その動きをコントロールするために産業用のロボットとおなじように、コンピュータによる数値制御が必要となりました。

ただ今プラネタリウム室の機械や内装の工事を行なっており、大変ご迷惑をおかけしています。

プラネタリウム室の変わらぬ内容は、プラネタリウム投影機本体、音響機器、補助投影機の一部と棚、座席、カーペット等です。ただし、部屋やドームの大きさはそのまま、です。

新しいプラネタリウムは今までとどこが違うのか、どんなことができるのか「はくぶつかん」今月号、来月号でお知らせしていくこうと思います。

プラネタリウム外形図



惑星の運動が早くできることは、何ヶ月にもわたる太陽や惑星の運動のようすや、年月日を頻繁に変えたり、繰り返したり、という内容の投影が可能になります。月の動きは目にも止まらぬ早さになることでしょう。

今まで、プラネタリウムは地上で見る星の動きの再現にとどまっていましたが、始めに述べた「緯度軸」、「自転軸」、「才差軸」、「回転架台軸」、の4軸を高速動作できる利点を生かし、それなりのプログラムを組むことで、他の太陽系天体（人工天体も含めて）上で見る星の動きを表現します。

例えば、もし火星に行くことができて、火星上のある場所から星空を見るとしたら、星空はどんな動きをするだろうか、といったことを表現できるようになります。

多少なりとも地球の外に位置することができるようになるわけです。

2 音響もなかなかです。

音響も今までの職員の手製の自作スピーカーを使ったものから、プロ機材を使って長期にわたる信頼性が得られるものになります。

有名な音響機器メーカーのポーズ社のスピーカーを配置した6音源のドルビーサラウンドシステムに、CD、DATなどの音楽ソース。宇宙空間を漂うようにいっぱいにひろがるサウンドやパワーのあるサウンドをお楽しみいただける機会も、いつの日か持ちたいと思っています。（馬）

行事案内

2月

- 4 土 古文書講読会／土曜観察会
5 日 体験学習“巣箱づくりと巣箱かけ”
(文化センター公園)
18 土 古文書講読会／土曜観察会
19 日 体験学習“巣箱かけと掃除”
(高麗山)
25 土 石仏を調べる会
26 日 相模川を歩く会

・寄贈品コーナー：万田熊ノ台遺跡展

3月

- 4 土 古文書講読会／土曜観察会
11 土 石仏を調べる会
18 土 古文書講読会／土曜観察会
19 日 相模川を歩く会
25 土 石仏を調べる会
26 日 体験学習“拓本墨を作ろう”

・寄贈品コーナー：民俗部門
(3月1日～30日)
・第2回平塚市博物館公募写真展
(3月19日～4月23日)

●移動博物館のお知らせ

横内と金田の2会場で開催します。参加は自由ですから、お誘い合せて御来場ください。

○横内公民館：星を見る会

3月4日(土) 18～20時まで

○金田公民館：野鳥展

3月11～12日(土・日) 9:30～16時

野鳥の生態写真と剥製標本で、平塚の野鳥を紹介します。

●体験学習「拓本墨を作ろう」

拓本墨を実際に作り、板碑・土器・高札などの写し取りを実習します。

日時：3月26日(日) 10～15時

場所：博物館科学教室

参加費：材料費として700円

募集人員：15名。往復ハガキで3月19日までにお申込みください。多數の場合は抽選します。

相模川流域の写真公募について

第2回の公募写真展は1月末日をもって、締切られました。カラー・白黒・組写真など、併せて58組76点(1月28日現在)をお寄せいただきました。当月に審査をして、3月には公募写真展として皆様にお見せできると思います。

相模川沿いに展開する日々の暮らしは、ひと昔ふた昔と年を経るほどに、こんな暮らしがあったのかと、驚いたり笑ったり、懐かしんだりできます。日々の暮らしが人々のアルバムに大切に藏されるように、相模川に寄り添って働く様子や人々の哀歎、飛ぶ鳥、地を這う虫、野に咲く花や街角の四季まで、年ごとの祭り行事などをフィルムに記録できます。言ってみれば流域の目で見る歴史記録を作りたいのです。今のところ2年に1回の割りで公募展を開く予定でありますので、ご協力いただけますようお願いいたします。

「はくぶつかん」

Vol.13 No.11 通巻150号 印刷 平塚市総務部総務課文書係 ○3,000

発行 平塚市博物館 〒254 平塚市浅間町12-41 Tel.33-5111